

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が掲げた「利用者1人ひとりを個人として尊重し地域に溶け込みその人らしく暮らし続けることを支援します」という理念のもと、目標は「尊重・感謝・笑顔・希望・家庭的」とあげ、グループホームが我が家と思って頂けるよう地域密着型サービスとしての役割を考えている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は朝・夕申し送り時に毎日理念を唱和することで意識づけが行われている。職員は利用者のニーズを尊重し、日々のケアの中でその人らしく暮らし続けられるよう理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所を訪問された方が視野に入るように玄関・リビング・事務所に掲示しており、毎月発行される通信便りにも必ず理念を書き入れて事業所の考え方を理解してもらえるようにしている。		字を拡大して今より以上に見やすくしていくよう取り組む
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	御利用者の知人・友人が気軽に訪問されて自宅に咲いた花・実った果物を持参していただいたり又、駐車場を貸し借りしたり、日頃より挨拶を交わしており、お互いに助け合いながら日常のお付き合いをさせていただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、回覧板が回ってくることにより事業所は孤立することなく、地域の行事にも参加し、その時、地元の人々と交流することに努めている。		催し物等への参加について今後も積極的に取り組む。ホーム前の道路が児童の通学路の為、子供達との挨拶が利用者の方の楽しみとなっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所が積みあげてきた認知ケアと時間が許せば、地域の高齢者の暮らしに何か役立つことがないか話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は引き続き今回もサービス向上を目指して評価を行う事を職員に説明。管理者・職員で自己評価表を記入。職員も含め話し合い追加修正を行った。具体的な改善と今回の評価で取り組んだ事で意識が変わりケアの統一が図られ利用者に対する接し方がニーズに合ったことになってきている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議予定2週間前に議題内容を記載した案内状を郵送している。利用者・御家族・民生委員・町役場の担当者の参加で2ヶ月毎開催している。ホームの現況報告・行事報告・行事計画と共に報告している。出された意見を踏まえサービス向上に向け取り組みを行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事の時等に担当者の方にも参加していただくよう声かけし、開かれた事業所を目指すと共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的機関でパンフレットを頂き事業所に備え、必要になった時は、すぐ説明できるように学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について正しく認識しており、利用者に虐待が一切行われないよう職員間でも見過ごさない様注意し、防止に努めている。管理者が地域の虐待防止の研修に参加。代表が身体拘束・虐待防止に対する意識が強く、会議に職員間で虐待防止に向けて共通の意識を持つよう取り組みを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時には、契約書等を渡し文書・口答で十分説明し、ご本人・ご家族の方に不安・疑問点を尋ねていただき理解、納得を図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より何かあれば管理者や職員に話してもらうように伝えており、意見があればそれらを運営に反映させるよう取り組んでいる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「希望の郷」通信と、領収書のコピーを郵送し、日頃の暮らしぶりや金銭の報告を行っている。個々に合わせた体調報告等は御家族訪問時や遠方の方には電話での報告を行い御家族には安心していただけるような支援を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しており、苦情相談窓口のポスターもわかりやすい所に掲示している。ご意見・相談などあれば遠慮なく言っていただくよう伝えている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者・管理者は理念を踏まえた上で共通の価値観や方針を持つためにも、職員会議や内部研修を行い、意見等を尊重し、サービスに反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況(外出時、利用者や家族の状況の変化等)に応じ、適時に職員を配置し勤務の調整に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの職員による支援を継続できるように異動や離職を最小限に抑える努力をし、代わる場合はダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人代表者・管理者は職員の募集、採用にあたって性別、年齢、宗教等による採用対象から排除しないようにしている。 働く職員については、能力を發揮できるようそれぞれに係を担当して自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>代表・管理者は利用者に対する人権を尊重する為に職員等に対して会議カンファレンス又、実践を通じて話をしていき啓発活動に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表・管理者は職員育成が不可欠であることを理解し、段階に応じた内部・外部研修を受ける機会を確保している。月1回の定期的な内部研修以外にも資格取得を推奨している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は同業者との交流・連携の必要性を認識し、管理者は岡垣町介護サービス事業者等連絡会議に参加しこの度他の事業者との交流を図っている。</p>		<p>隣地域の同経営のグループホームとの交流をさらに図り、相互訪問や勉強会を通じて、共同で啓蒙活動をおこない、さらなるサービスの質の向上を目指していきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者や職員の抱えている悩み等について、十分受容し、精神的軽減を図るようにすると共に、職員のニーズに応えられるよう取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、より充実させながら各自が向上心を持って働ける様充実したやり甲斐のある職場を目指している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>困っている事・不安に思っている事を本人とコミュニケーションを取りながら聞き出し、受容し、受け止める努力をしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>何度でも見学して頂き安全と安心と暖かみのある事業所である事を肌で感じていただき安心して生活できると納得していただくよう努力をしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は十分に話を聞き、不安を取り除き安心してサービスの利用ができるよう対応に努めている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前にホームの見学をして頂いた時部屋を案内し、安心を持って頂き徐々に雰囲気に馴染める様家族と相談しながら工夫しながら取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である利用者に色々な事を教えて頂いている。夜勤の時は大変ですねとやさしい言葉をかけて下さる。利用者が入院された時は他の利用者も職員と共に心配し、一緒に千羽鶴、色紙を書いたり、退院を喜ぶという思いを共有している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に情報を共有し、共に同等の立場で利用者を支えていく関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活の詳細を家族の方が来られた時、通信等を通じて伝え本人の生活ぶりを理解していただく様支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が見えられた時家族の方のお話を得ながらつながりが途切れない様支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中でトラブルが多々見られるが利用者同志の関係状況を把握し情報を共有しながら支援に取り組んでいる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても継続的に関わりを必要とする時はつながりを断ち切らないように大切にしている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴・生活習慣を把握し、必要としているニーズに対応するよう努めている。意思表示ができない方は本人本位に検討し支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴・馴染みの暮らし方を十分把握し、今後サービスに何が必要か認識しながら取り組んでいる。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態、有する力等を把握し、ニーズにあった対応ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合い月に2回のモニタリング・主治医・かかりつけ医の助言を元に本人の状態に沿った介護計画を立てている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のスタッフ会議で問題点の確認などの検討を行い、利用者の生活状況の変化を見逃さず現状に即した計画を作成している。新たな気づきや意見が出された場合は臨機応変な見直しをしている。利用者の変化や気づきを記録に残している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果気付いた事を個別に記録することにより、職員間の情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊・外出をされたり、家族の方や馴染みの方が面会に来られた時は、居室やリビングにて談話されたり、体操等に参加して頂き柔軟な支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の生活安定の拡充の為、外食時等の予約の協力を得ながらの支援行事の際には踊り・ハーモニカ演奏の実施などボランティアの協力も実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて他のサービスを利用するための支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人・家族の意向や必要性に応じて民生委員等の協力を得ながら権利擁護について連携を密にしていく様取り組んでいる。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にすると共にかかりつけ医の受診を考慮しながら適時に対応している。職員が通院介助している場合は家族に結果を報告している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	物忘れ外来を受診しており、電話での相談もでき主治医やソーシャルワーカーからの助言を頂き適切な医療を受けられるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師に利用者の日常生活の健康管理を相談しながら支援への助言を頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族・医療機関と情報交換を密にして、できるだけ早期退院できる様に受け入れ体制についても十分備えている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>段階的に家族との連絡を密にし、かかりつけ医との連携を図りながら全員で方針を共有している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在ホームに看護師がいない為、看取りは行っていない。重度化した場合、終末期の対応は可能な限りホームで対応する事を家族に説明している。医療が必要になった場合医師・家族を含めて話し合いを行い入院の時期も決めている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入退去の前後には、利用者や家族の方に理由を十分理解していただくと共に、保険医療福祉の関係者と十分話し合い、情報交換を行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人を尊厳し、人権を大切に考えながらプライバシーの侵害を損ねない様、個人情報を守秘義務を尊重し配慮しながら行っている。全職員に個人情報保護規定に遵守していくよう研修を行う機会も設け、誓約書を採用時と退職時に記入してもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本人の自己決定を尊重し、意見を十分受容し、本人自身が満足のかける状況を作り出せるよう支援を行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事なく、一人ひとりのペースを大切に、利用者が1日を通して充実できたかを見極めながら支援を行っている。又、レクレーションは個別メニューを取り入れている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と共に行ける方は、行きつけの美容室に行かれている。又、行けない方は出張サービスにて本人の希望を取り入れながらカット、顔そりなどをして頂いている。又、外出する際はスタッフと共に服を選んだりお化粧品をし、出かけられている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しくいただけるよう音楽を流し、明るく楽しい雰囲気の中で会食をしている。又、食事の準備では、利用者の能力に応じて味見をしていただいたり、盛り付け・配膳・後片づけをしていただいている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1日3回お茶の時間を設け、楽しい談話の時間を過ごしている。なお、自己管理が出来る利用者には居室に冷蔵庫を置きそれぞれに楽しんでいる。又、定期的に冷蔵庫の中身の確認をし衛生面にも注意を払っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	継続して排泄チェック表に記録しており、排泄の自立に向けて間隔や兆候に合わせて前誘導を行う支援をしている。又、はずせる可能性を意識し取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在週3回入浴日となっているが、利用者の希望や体調に応じて、入浴日以外でも入浴して頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、利用者のニーズに合った生活配分を考慮しながら満足感を持って頂き、安心して気持ちよく休息したり安眠できるようケアに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々のニーズに応じた取り組みをしており、各人が何が一番得意不得意かを見定めながら、職員が暖かみのあるサポートをし、利用者が楽しんで主体的に活動できるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所外に出てショッピングする際、ご自分で支払いが出来るようサポートを行っている。又、物を買う事の喜びが味わえる様個人の力量に応じ支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、週一回のショッピングを個別に支援している。又、天気の良い日には散歩に出かけ、地域の方々とのふれあい日常生活の活性化につなげている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・身内の方と共に買い出・外泊。 ・月に一度の外食。 ・週1回のショッピング。 ・地域行事への参加(夏祭り・敬老会・演奏会)等々機会を作り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればサポートしてかけて頂いている。又、自室に電話を設置したいという希望の方には家族と連携を図り設置への支援をしている。絵はがきに色づけし、メッセージと共に家族に郵送したり等支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂き、ご自宅で過ごされているような雰囲気作りを工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表が身体拘束廃止に対する意識を強くもっており、全職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束のないケアの取り組みをしており、安全確保の為やむを得ない場合は、家族の同意書を取っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り強化・所在確認を行い玄関センサーを併用する等工夫している。職員が玄関近くの事務所で記録したり玄関などに2種類のセンサーを設置し、状況に合わせて使い分けしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、その時々によって安全への配慮を工夫している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理ができる方には依頼し、一人ひとりの状態に応じ、物品の保管管理し、職員は常時目配り強化し、危険防止対策に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危機管理に対する知識を学び、ヒヤリハットや事故報告書も全職員が周知する事により、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。利用者が使う椅子全てを肘置きのある安定性のある椅子に変更するなど改善していった。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを整備しており、急変や事故発生時に冷静に対応できるよう内部研修を行い、全職員が応急手当や初期対応の訓練をし、今後も定期的の実施する事になっている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回は災害時の避難訓練を実施し、持ち出し袋も慌てず対応できる様すぐわかる場所に準備している。又、日頃より地域の人々の協力を得られる様馴染みの関係を築いている。火災通報装置を設置している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクを家族等に説明し、十分理解して頂くと共に、拘束のないケアを大前提に対応策を考えながら抑圧感のない暮らしができるよう取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、家族との連絡を密にしながら、かかりつけ医との連携を図り速やかに情報を共有し、早期発見・早期対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を十分把握し、医師からの処方箋や助言を間違いなく理解した上で、利用者に対応している。副作用に関しては、速やかに医師に伝え診断を仰ぐ。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握した上で、便秘が続いている利用者に関しては水分補給や消化のよい食物、腹部マッサージ等の対応を行っている。又、医療機関への相談も必要に応じ取り組んでいる。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、歯磨き・義歯消毒・うがい等の口腔ケアを毎食後支援している。義歯脱着できない方は一部支援している。又、口腔内の異常があった場合、歯科受診を行って早期対応に取り組んでいる。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取カロリーを把握し、日頃の摂取量や残食量、水分摂取状況等を記録し個別の状態に応じた支援をしている。食事が継続してとれない方は、かかりつけ医に相談の上、ラコール等の栄養剤を処方していただく等栄養状態を保てるように心掛けている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを備えている。必ず出入りのうがい・手洗い励行。感染症やインフルエンザ予防には、かかりつけ医のご意見を頂きながら予防に努めている。スタッフは業務開始、終了時には必ず、手洗い・安全性も含め緑茶でのうがいを施行している。利用者も同じく施行している。又、面会者や外出より戻った際等、誰もが利用できるように、各洗面台にうがい用の緑茶・紙コップを設置している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為にエタノール消毒・おしぼり使用又、調理器具も肉・魚・野菜と使い分けて衛生管理に努めている。業者からの発注等について検品を実施している。使い捨て消毒おしぼり使用し、さらに衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内外には花を置き、手作りのものを飾っており、不快な匂いが無い様芳香剤を置き訪問者がいつ見られても暖かみを感じて頂ける様スタッフが笑顔でお出迎えを実践している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は安全を第一に考え、安心して共有できるよう、又清潔さに気配りをし、廊下やリビングにはカレンダーを置き、廊下には季節に合った言葉・文字を利用者の方々がそれぞれ書道にて書き展示している。居心地のよい居場所となることに配慮し支援に努めている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で玄関及びリビング等にくつろげる居場所を設け、利用者がお互いに誘い合って集いの場として活用できる様工夫している。また、歌の好きな利用者がゆっくり回りに気兼ねなく唄える空間をつくりカラオケを楽しめる部屋も提供している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力の下、思い出の品や、使い慣れた家具類を置き、自己管理できる利用者には冷蔵庫を居室にて使用し、居心地良く、自室にプライベートの時間を過ごせるようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	不快な臭いがない様換気に努め、香りの素を各居室に置いている。温度調節は外気温との大きな差がないよう配慮し、冬場は加湿器を使用したり、利用者の状況に応じてこまめに対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし安全かつ安心して自立した生活が楽しく送れるよう環境作りに工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室が分かるように写真付きのネームプレートを入りに設置していると共に、一人ひとりの残存機能をできるだけ活かし、混乱や失敗を防ぐことにより、自立した生活が過ごせるよう工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに一部柵を設置した為道路に出る危険性がないので、職員と共に散歩道として利用している。また、デッキを屋外レク等に活用し外の空気を吸いながら楽しい時間をもったりしている。玄関先及び花壇には季節の花々を植樹し心なごませる工夫をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・特に力を入れている点

1. 不穏になられた利用者に他の利用者が共に不穏にならない様、素早く気分転換を図る(散歩・会話・レク)。
1. 今より以上に地域に開かれた施設として、今後も地域の方々との触れ合いをより大切に深めていく。

・アピールしたい点

1. 家庭的な施設として地域との交流を深めるために、積極的に挨拶や会話をしている。
1. 個々の人権を尊重し、個々のニーズに応じた張りのある生活を日々支援している。